

株主メモ

決算期日 毎年3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 上記基準日 定時株主総会については3月31日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
 配当金受領株主確定日 利益配当金については3月31日
 中間配当金については9月30日（当期は中間配当を実施していません。）
 1単元の株式数 100株
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 名義書換代理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 同連絡先 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 （郵便物送付先）
 （電話照会先） 電話 0120-707-696（フリーダイヤル）
 同取次所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
 証券・銘柄コード 7458

<お知らせ>

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙、及び株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができますようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
- 決算公告につきましては、日本経済新聞への掲載のほか、当社のホームページ（<http://www.dkkaraoke.co.jp>）でもご覧になれます。

当社商品が2004年度グッドデザイン賞を受賞しました。

ブロードバンドサイバーダム「DAM-G100」とハイパーカラオケシステム「DAM-G30」において、優れたデザイン商品に贈られる（財）日本産業デザイン振興会の2004年度グッドデザイン賞を受賞し、Gマークの認定を受けました。

グッドデザイン賞受賞商品



ブロードバンドサイバーダム DAM-G100



ハイパーカラオケシステム DAM-G30

ECHO

Vol.18 第30期 中間事業報告書
 平成16年4月1日～平成16年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

また、平素は当社グループの事業活動に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび第30期中間期（平成16年4月1日～平成16年9月30日）を経過いたしましたので、「第30期中間事業報告書」をお届け申し上げます。

当社グループは、強力で魅力あるコンテンツの創造とカラオケ事業をはじめとするあらゆる音楽事業を通じたサービスの提供に向け、積極果敢に取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、何卒変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

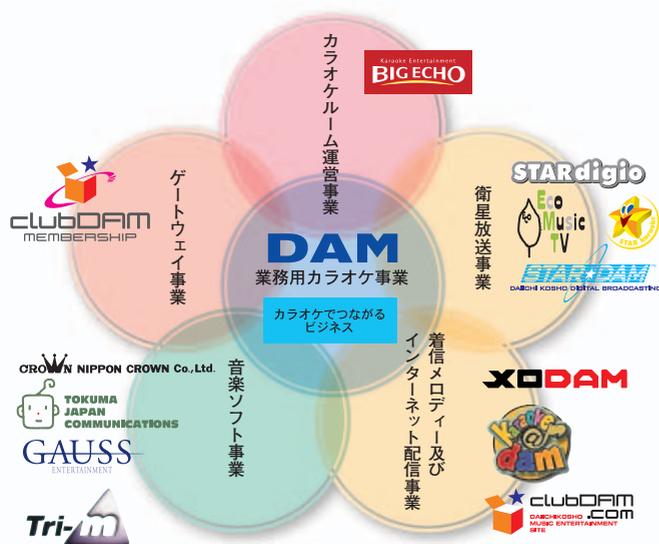


代表取締役社長 兼最高執行役員

米田 龍佳

第一興商グループ 事業ドメイン

～カラオケを中心としたエンタテインメントを提供～



(平成16年9月30日現在)

■ 業務用カラオケ事業

業務用カラオケ機器・カラオケソフトの販売及び賃貸、並びに通信カラオケへの音源及び映像の提供を行っており、セグメントは業務用カラオケ事業に属しております。

■ カラオケルーム運営事業

カラオケルーム「ビッグエコー」を国内で207店舗、海外で2店舗展開しており、ルームの運営とともに飲食の提供を行っております。なお、セグメントはカラオケルーム運営事業に属しております。

■ 衛星放送事業

衛星デジタル放送「スカパーフェクTV！」をプラットフォームとし、テレビ2ch、ラジオ100chのサービスを行っており、セグメントはコンテンツ事業に属しております。

■ 着信メロディー及びインターネット配信事業

携帯電話向け着信メロディー配信を中心とした様々なコンテンツ配信サービスを行うほか、カラオケのインターネット配信サービスを行っており、セグメントはコンテンツ事業に属しております。

■ 音楽ソフト事業

音楽レコード会社4社及び販売会社1社において音楽、映像ソフトの制作、販売を行っており、セグメントは音楽ソフト事業に属しております。

■ ゲートウェイ事業

「ブロードバンドサイバーDAM」と情報端末「DAMステーション」の融合によるブロードバンドを活用した双方向サービスの提供などを行っており、セグメントはその他の事業に属しております。

■ その他の事業

不動産賃貸事業、飲食事業、通信販売事業などを行っており、セグメントはその他の事業に属しております。

ゲートウェイ事業

当社グループは、ブロードバンド接続対応の業務用カラオケ機器「BB cyber DAM (ブロードバンドサイバーダム)」と情報端末「DAMステーション」を接続し、様々なエンタテインメントコンテンツサービス「club DAM MEMBERSHIP」を展開するゲートウェイビジネスを平成16年4月より開始いたしました。「DAMステーション」は、平成16年10月現在、約300店舗・約3,000台が稼働しており今後も、収益の拡大を目指して更なるサービスの強化やコンテンツの充実を図ってまいります。

「club DAM MEMBERSHIP」～サービス強化と新コンテンツの追加～

club DAM MEMBERS CARDの充実

「club DAM MEMBERSHIP」サービスを受けるには、会員カード (club DAM MEMBERS CARD) が必要になりますが、従来のカードに加え、平成16年7月には(株)NTTドコモのiモードFeliCa対応携帯電話にも対応し、10月には(株)オリエン特コーポレーションや(株)ソニーファイナンスインターナショナルと提携してクレジット機能付きカードを発行いたしました。

主な特徴

- 入会金・年会費無料
- DAMステーションを通じて提供されるコンテンツが利用可能
- 電子マネー「Edy※1」決済機能付き
- 全国のビッグエコーで室料20%割引
- 「club DAMポイント」システム対応
- 「eLIO※2」機能付きのカードは、安心して簡単にクレジット決済が可能



iモードFeliCa対応携帯電話 認証例



ソニーファイナンス提携 「BIG ECHO/club DAM MEMBERS eLIO (クレジット) カード」



オリコ提携 「club DAM MEMBERS (クレジット) カード」

ポイントサービスの導入

平成16年10月より「DAMステーション」でコンテンツ利用時に料金に応じてポイントが貯まるサービス「club DAM ポイント」を開始いたしました。

- 利用金額100円につき1ポイントが貯まる (1ポイント=1円相当)
- ポイントは有料コンテンツの決済や500ポイント以上貯まると「Edy」ギフトとして電子マネーなどの特典に交換可能※3

新コンテンツ紹介

1 ランキングバトルスペシャル

毎月課題曲を決め、ランキングバトルを実施。上位入賞者や順位に応じてオリジナルグッズや認定証をプレゼント。



2 ガイドボーカルオーディション

課題曲によるオーディションを実施し、優勝者をカラオケのガイドボーカリストとして採用。



3 沖縄オーディション

地域限定のオーディション。合格者はCDデビュー。



4 ECC発音チャレンジ

洋楽曲を歌い、その発音をECC外語学院所属のネイティブスピーカーが評価してくれるカラオケ発音審査。



5 神秘のエジプト守護神占い

Web上でも人気の高い「神秘のエジプト守護神占い」を導入。



※1) Edyは、ビットワレット(株)が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。

※2) eLIOは、(株)ソニーファイナンスインターナショナルが開発したネット決済用のクレジットサービスで、同社の登録商標です。

※3) ポイントの交換開始は平成17年3月予定です。

歌うスペースから総合エンタテインメントスペースへと進化する『ビッグエコー』

飲食メニューの充実 本格的な食事需要に対応

- 「和」テイストの積極導入
- オリジナリティーある創作料理の導入
- カロリー・塩分を表示
- 豆乳、健康茶などの素材を用いた健康カクテルの導入
- 「音楽」をキーワードとしたネーミングでエンタテインメント性を演出



DAM Shop 当社が提供する通信販売

- 開始時期：平成16年5月
- 特徴：大手通信販売会社「(株)ベルーナ」と提携し商材を選定
当社発行のカラオケ目次本を活用して商品を掲載



BE Sound Gate ビッグエコー店頭でCD・DVD販売

- 開始時期：平成16年10月
- 販売店舗：年末商戦前には国内全店舗で販売予定
- ラインナップ：CD132タイトル・DVD7タイトル（1展示台あたり）
- 販売形式：新譜に加え、様々なランキング形式で販売（新譜ランキング、カラオケリクエストランキング、インディーズアルバムランキングなど）



KARAOKE MAX カラオケルームがバーチャル体験できる音楽CD付き食玩

- 開始時期：平成16年9月
- 販売店舗：全国のビッグエコー店頭
- ラインナップ：カラオケで人気の大ヒット曲12曲+シークレット1曲
- 内容：歌唱指導書付きのオリジナル音源CD1枚／歌った後に喉を癒すのど飴／ビッグエコーのクーポン券
- 特徴：パソコンにCDを入れるとバーチャルカラオケルームが起動し、おなじみのカラオケ映像を見ながら歌の練習ができます。



DAM CHANNEL 通信カラオケDAMの曲間で放映するエンタテインメント情報番組



- 開始時期：平成16年8月
- 対応機種：ブロードバンド接続に対応した「BB cyber DAM」と「NEW cyber DAM」
- 番組内容：パーソナリティー 菊川怜
30分番組でカラオケが歌われていない時間(曲間)に放映し、音楽に関連したエンタテインメント情報を紹介
番組コーナー

（プロモーションビデオを使った音楽情報
おすすめの新作映画・DVD・サウンドトラック
アーティストとの対談
歌手本人映像のおすすめカラオケ曲 など）

※ビッグエコー直営店のフロントでは、ビッグエコーの情報を加えた「DAM CHANNEL」を放映

DAMシネマ

好みの作品を選んで映画が見られるシアターサービス



- 開始時期：平成16年9月よりトライアル開始
- 実施店舗：ビッグエコー「八重洲本店」
- 作品：新旧作約30作品（毎月、数十作品ずつ追加予定）
- 設備：各ルームに最大100インチの大画面と専用リクライニングチェアを完備

■新店情報（平成16年4月～平成16年9月）

当 社		
店舗名	ルーム数	地域
呉駅前店	37	広島県
三軒茶屋駅前店	50	東京都
本厚木中央店	40	神奈川県
赤羽店	81	東京都
八重洲本店	92(内シアター8ルーム)	東京都

子会社		
店舗名	ルーム数	地域
上水戸店	30	茨城県
平塚本店	42	神奈川県
新宿西口店	41	東京都
土山店	26	兵庫県
上野駅前店	70	東京都



営業の概況(連結)

当中間期の概況

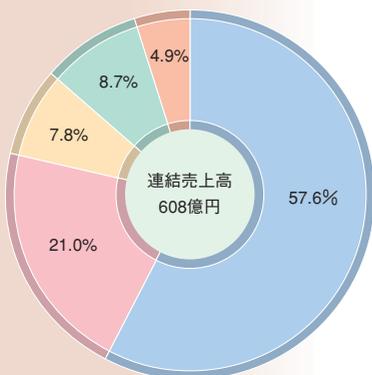
当中間期におけるわが国経済は、原油高騰による不透明感が広がりつつあるなか、設備投資や輸出が堅調に増加し、また企業業績の好転から雇用環境にも改善が見られるなど、景気は速度を緩めながらも回復基調を保って推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、商品やサービスの低価格競争が続くなか、スナック、クラブをはじめとするナイト市場の経営環境は依然厳しいものの、カラオケボックスなどのデイ市場では、設備やサービスを充実させた大型店の積極出店が相次ぎ、またメーカーにおいてもブロードバンドを見据えた新商品が発売されるなど、市場活性化への努力が見られました。

このようななか当社グループにおきましては、当カラオケ業界におけるトップシェアの更なる拡大のため主力商品である「ブロードバンドサイバーDAM(DAM-G100)」を中心にカラオケ機器の販売及び賃貸へ注力するとともに、カラオケルーム「ビッグエコー」におきましても、首都圏及び地方中核都市の好立地を中心に10店舗を新規出店いたしました。一方、コンテンツ事業及び音楽ソフト事業におきましては、業界環境は厳しいものの蓄積したノウハウとコンテンツ資産を活用した事業展開を図ってまいりました。また新規事業である「ゲートウェイ事業」では「ブロードバンドサイバーDAM」と情報端末「DAMステーション」による様々なエンタテインメントコンテンツサービスの提供を開始いたしました。当社グループは、事業を取り巻く急激な環境変化に対応しつつ、「音楽とカラオケとエンタテインメント」が一体となった総合音楽エンタテインメントビジネスの実現のため、これら経営上の諸施策を積極的に推進してまいりました。

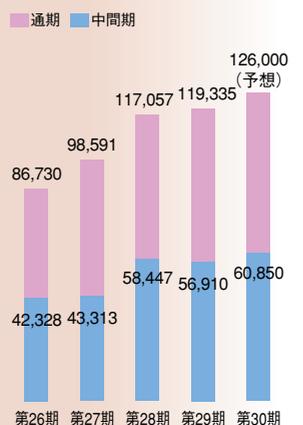
以上の結果、当中間期の売上高は60,850百万円と前年同期比6.9%の増収となりました。一方、利益面におきましては、今後展開していくコンテンツサービス強化にかかる先行コストや、各種シェアアップ施策のための営業費用の増加もあり、営業利益は6,296百万円と前年同期比8.5%減少し、経常利益も6,195百万円と前年同期比3.1%の減少となりましたが、特別損失において固定資産処分損を計上したものの、前中間期に計上した過年度役員退職慰労引当金繰入額の負担がなくなったことから、中間純利益は前年同期比178.6%増加の3,895百万円となりました。

●連結売上高構成比



- 業務用カラオケ事業
- カラオケルーム運営事業
- コンテンツ事業
- 音楽ソフト事業
- その他の事業

●連結売上高 (単位：百万円)



通期の見通し

通期の見通しにつきましては、景気は緩やかながら回復基調を維持していくものの、世界情勢は未だ不安定要因を抱えており、また原油高や円高進行の懸念から、先行きへの不透明感は依然として払拭しきれない状況で推移していくものと思われます。

当業界を取り巻く経営環境も依然として厳しく、これまで出店意欲が旺盛であった大手カラオケボックス事業者の一部においては出店規模や時期を調整する動きも出始めております。しかしながら、ナイト市場、デイ市場ともに旧機種からの更新期にあり、ブロードバンド対応機種への買換需要は今後も加速することが予想され、メーカーにおいてもより高付加価値の新商品の投入が求められております。

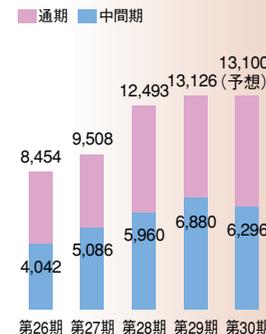
このような環境のもと当社グループはカラオケビジネス環境の変革と市場の活性化を図るため、新規事業「ゲートウェイ事業」におけるサービスを本格的に開始し、市場への早期浸透及び定着を目指してまいります。

また、業務用カラオケ市場におけるトップシェアも更に拡大するため、サービスの差別化と品質強化による「DAM」ブランドの価値向上を継続推進するとともに、当中間期同様、積極的な商品出荷に注力し通信カラオケにおける過去最高の出荷を目指してまいります。カラオケルーム運営事業におきましては、投資効率を重視した好立地における店舗展開を積極的に進めることで一層の業容拡大を目指してまいります。コンテンツ事業における衛星放送事業につきましては、事業黒字の定着化がほぼ達成できたことから今後は事業規模拡大を目指し、またeビジネス事業につきましては、減少する加入者を維持増加させるべく優良コンテンツを企画開発するとともに、新たなサイトを立上げ効果的な加入者増加策を実施し、収益拡大を目指してまいります。

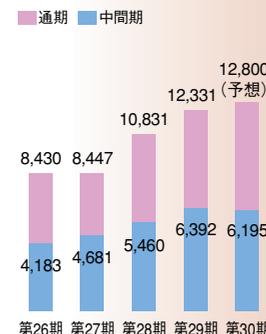
一方、子会社が展開する音楽ソフト事業におきましては、収益の改善を図るため営業力を強化しつつ、当社グループのネットワークを生かした新人アーティストの発掘とヒット曲の創造に努めてまいります。

当社及び当社グループは、引き続き厳しい環境下ではありますが、以上の諸施策を確実に実行することにより、通期の業績については当初の公表通り売上高1,260億円、経常利益128億円、当期純利益68億円を計画しております。

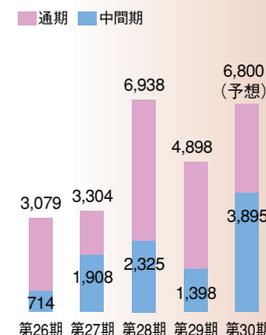
●連結営業利益 (単位：百万円)



●連結経常利益 (単位：百万円)



●連結中間(当期)純利益 (単位：百万円)





セグメント別概況

セグメント	業務用カラオケ事業	カラオケルーム運営事業	コンテンツ事業	音楽ソフト事業	その他の事業
売上高(百万円)	35,067	12,771	4,729	5,289	2,991
営業利益(百万円)	7,593	224	483	△ 891	165

事業の種類別セグメントの概況は、以下の通りであります。



業務用カラオケ事業

売上高 **35,067**百万円(前年同期比+10.7%) 営業利益 **7,593**百万円(前年同期比+31.9%)

当事業におきましては、市場での商品の低価格化及び多機能化が進行するなかであって、当社グループにおきましては、前期10月に発売した主力商品「ブロードバンドサイバーDAM (DAM-G100)」が従来商品に比べ搭載機能や多彩なコンテンツなど付加価値が非常に高いこと、またブロードバンド環境を本格的に活用し双方向サービスが可能であることから、引き続き市場から高い評価を得て19.8千台を出荷し、中間期における通信カラオケの出荷台数としては過去最高となりました。また、ナイト市場を中心とするカラオケ機器賃貸におきましては、月額賃貸料金が低下傾向にあるなか賃貸件数の増加を図り、カラオケ音源等の情報提供料収入におきましても、販売台数や賃貸件数の増加に伴い通信カラオケ機器の稼働台数が着実に伸びました。この結果、当事業の売上高は前年同期比10.7%増加し、営業利益も前年同期比31.9%の増加となりました。



カラオケルーム運営事業

売上高 **12,771**百万円(前年同期比+5.4%) 営業利益 **224**百万円(前年同期比△ 82.6%)

カラオケルーム「ビッグエコー」の運営におきましては、当中間期に積極的に多店舗展開を進め、首都圏及び地方中核都市の好立地を中心に10店舗を新規出店するほか2店舗を閉店し、当中間期末現在209店舗(国内207店舗、海外2店舗)、部屋数は前期末から534ルーム増加の5,896ルームが稼働しております。この結果、当事業の売上高は前年同期比5.4%増加いたしました。既存店売上高におきましては、オリンピック観戦や猛暑・台風など天候不順の影響もあり、前年同期比3.8%減少いたしました。また、積極出店に伴う営業費用及び店舗家主の財政状態悪化に伴う差入保証金に対する貸倒引当金繰入額が増加したことから、営業利益は前年同期比82.6%の大幅な減少となりました。



コンテンツ事業

売上高 **4,729**百万円(前年同期比△ 10.3%) 営業利益 **483**百万円(前年同期比△ 53.0%)

当事業におきましては衛星放送事業とeビジネス事業を行っておりますが、衛星放送事業におきましては、民生用サービスの契約件数が減少傾向にあるなか、これと同様のコンテンツを業務用に提供する「スターダム」サービスの契約件数が堅調に伸長し、またコストコントロールによる収益改善も定着して推移いたしました。一方、eビジネス事業におきましては、着信メロディー市場全体の加入者数が減少傾向にあるなか、新規サイトの立上げやサービスの拡充を図りましたが、当社においても加入者は減少に至りました。この結果、当事業の売上高は前年同期比10.3%減少し、eビジネス事業における新規サイトの運営費用などの増加により、営業利益は前年同期比53.0%の減少となりました。



XODAM

音楽ソフト事業

売上高 **5,289**百万円(前年同期比△ 0.3%) 営業利益 **△ 891**百万円(前年同期増減額△ 846百万円)

当事業におきましては、依然として音楽CD市場が縮小傾向にあるなか、業容の拡大を図るためグループメディアを活用した販促活動を積極的に推進いたしました。当中間期においてはヒット作に恵まれなかったため、当事業の売上高は前年同期比0.3%の減少となりました。また、制作原価並びに販売費及び一般管理費等の営業費用が増加したことから営業損失が891百万円と前年同期より846百万円の利益の減少となりました。

CROWN NIPPON CROWN Co.,Ltd.



GAUSS
ENTERTAINMENT



その他の事業

売上高 **2,991**百万円(前年同期比+17.6%) 営業利益 **165**百万円(前年同期比△ 38.0%)

当事業におきましては、飲食事業及び不動産賃貸が主なものでありますが、当期より新たに「ゲートウェイ事業」及び「通信販売事業」が加わり、これら新規事業におきましては、認知度の早期浸透を図るため、情報端末「DAMステーション」の設置及び通信販売カタログの配布を「ビッグエコー」店舗からスタートいたしました。この結果、当事業の売上高は前年同期比17.6%増加いたしました。新規事業開始に伴う営業費用も増加したため、営業利益は前年同期比38.0%の減少となりました。





●中間連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	第30期中間	第29期	対前期末増減額
	平成16年9月30日現在	平成16年3月31日現在	
資産の部			
流 動 資 産	55,346	54,644	702
固 定 資 産	83,945	83,808	137
有形固定資産	48,211	48,345	△ 133
無形固定資産	8,888	8,950	△ 61
投資その他の資産	26,845	26,513	332
資 産 合 計	139,292	138,453	839
負債の部			
流 動 負 債	48,267	49,541	△ 1,273
固 定 負 債	26,657	27,144	△ 487
負 債 合 計	74,924	76,685	△ 1,760
少数株主持分			
少 数 株 主 持 分	621	910	△ 289
資本の部			
資 本 金	12,350	12,349	0
資 本 剰 余 金	24,002	24,001	1
利 益 剰 余 金	28,961	29,716	△ 755
土 地 再 評 価 差 額 金	△ 1,927	△ 5,761	3,834
その他有価証券評価差額金	1,025	1,286	△ 261
為 替 換 算 調 整 勘 定	114	31	82
自 己 株 式	△ 780	△ 767	△ 12
資 本 合 計	63,746	60,856	2,889
負債、少数株主持分及び資本合計	139,292	138,453	839

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point 流動資産

流動資産の増加702百万円は現金及び預金の増加1,562百万円、並びに受取手形及び売掛金の減少1,101百万円が主なものであります。

Point 固定資産

固定資産の増加137百万円は新規出店によるカラオケルーム設備の増加1,325百万円及び差入敷金・保証金の増加575百万円、並びに建物・構築物・土地の減少2,819百万円が主なものであります。

Point 流動負債

流動負債の減少1,273百万円は未払金の減少1,023百万円及び一年内償還予定転換社債の減少844百万円が主なものであります。

Point 固定負債

固定負債の減少487百万円は長期借入金の減少70百万円及び役員退職慰労引当金の減少388百万円が主なものであります。

●中間連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	第30期中間	第29期中間	対前年同期比
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	
営 業 収 益	60,850	56,910	106.9
営 業 費 用	54,693	50,081	109.2
割賦販売未実現利益	139	51	
営 業 利 益	6,296	6,880	91.5
営 業 外 収 益	819	860	
営 業 外 費 用	920	1,348	
経 常 利 益	6,195	6,392	96.9
特 別 利 益	731	121	
特 別 損 失	2,238	3,398	
税金等調整前中間純利益	4,687	3,115	150.5
法人税、住民税及び事業税	884	1,081	
法人税等調整額	107	706	
少数株主利益(△損失)	△ 199	△ 70	
中 間 純 利 益	3,895	1,398	278.6

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

〈注記事項〉	第30期中間	第29期中間
1. 有形固定資産の減価償却累計額	48,174百万円	50,335百万円
2. 保証債務	910百万円	901百万円
3. 担保提供資産	18,621百万円	18,065百万円
上記に対応する債務	13,815百万円	14,681百万円
4. 1株当たり中間純利益	108円40銭	38円87銭
5. 1株当たり株主資本	1,773円74銭	1,567円49銭

※当社は平成16年5月20日付で株式分割(1:2)を実施しておりますが、1株当たり指標については比較を容易にするため、前期期首に分割されたものとして記載しております。

Point 営業損益

コンテンツ事業の売上高が減少したものの、業務用カラオケ事業が好調であった結果、営業収益は前年同期比106.9%、3,939百万円の増収となりました。一方、コンテンツ強化にかかる先行コストや各種シェアアップ施策のための営業費用の増加により営業利益は前年同期比91.5%、583百万円の減益となりました。

Point 中間純利益

特別損益において固定資産処分損2,232百万円を計上したものの、投資有価証券売却益553百万円の計上や前中間期に計上した過年度役員退職慰労引当金繰入額の負担がなくなったことにより、中間純利益は前年同期比278.6%、2,497百万円の大幅増益となりました。



連結決算概要

●中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	第30期中間	第29期中間
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,589	11,918
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,396	△11,348
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,372	△ 2,642
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	△ 17
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	1,841	△ 2,090
現金及び現金同等物の期首残高	20,300	22,831
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,142	20,740

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	第30期中間	第29期
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	24,001	24,000
資本剰余金中間期末（期末）残高	24,002	24,001
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	29,716	29,879
利益剰余金増加高		
中間（当期）純利益	3,895	4,898
利益剰余金減少高		
配 当 金	682	683
役 員 賞 与	134	134
土地再評価差額金取崩額	3,834	4,243
計	4,651	5,062
利益剰余金中間期末（期末）残高	28,961	29,716

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・役員退職慰労引当金
3,390百万円減少
- ・固定資産処分損益
1,827百万円増加

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・有形固定資産の取得による支出
2,792百万円増加
- ・定期性預金の払戻による収入
2,034百万円減少
- ・定期性預金の預入による支出
6,579百万円減少

Point

財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・短期借入金
620百万円減少
- ・長期借入による収入
1,979百万円増加



単体決算概要

●中間単体貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	第30期中間	第29期	対前期末増減額
	平成16年9月30日現在	平成16年3月31日現在	
資産の部			
流動資産	35,859	33,571	2,287
固定資産	51,882	55,007	△ 3,125
有形固定資産	17,961	20,662	△ 2,701
無形固定資産	8,372	8,437	△ 64
投資その他の資産	25,548	25,907	△ 358
資産合計	87,741	88,578	△ 837
負債の部			
流動負債	25,351	27,116	△ 1,764
固定負債	9,191	10,647	△ 1,456
負債合計	34,542	37,763	△ 3,220
資本の部			
資本金	12,350	12,349	0
資本剰余金	24,002	24,001	1
利益剰余金	18,535	19,716	△ 1,181
土地再評価差額金	△ 1,927	△ 5,761	3,834
その他有価証券評価差額金	1,018	1,277	△ 258
自己株式	△ 780	△ 767	△ 12
資本合計	53,199	50,815	2,383
負債・資本合計	87,741	88,578	△ 837

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●中間単体損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	第30期中間	第29期中間	対前年同期比
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	(%)
営業収益	42,186	38,888	108.5
営業費用	37,810	34,173	110.6
割賦販売未実現利益	79	37	
営業利益	4,454	4,752	93.7
営業外収益	624	771	
営業外費用	384	1,025	
経常利益	4,694	4,498	104.4
特別利益	733	121	
特別損失	2,015	1,455	
税引前中間純利益	3,413	3,164	107.9
法人税、住民税及び事業税	69	50	
法人税等調整額	△ 15	1,404	
中間純利益	3,359	1,710	196.4
前期繰越利益	408	679	
土地再評価差額金取崩額	△ 3,834	△ 23	
中間未処分利益又は中間未処理損失(△)	△ 66	2,365	

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

〈注記事項〉

	第30期中間	第29期中間
1. 有形固定資産の減価償却累計額	21,352百万円	23,911百万円
2. 1株当たり中間純利益	93円47銭	47円55銭
3. 1株当たり株主資本	1,480円27銭	1,301円49銭

※当社は平成16年5月20日付けで株式分割（1：2）を実施しておりますが、1株当たり指標については比較を容易にするため、前期期首に分割されたものとして記載しております。

株式の状況 (平成16年9月30日現在)

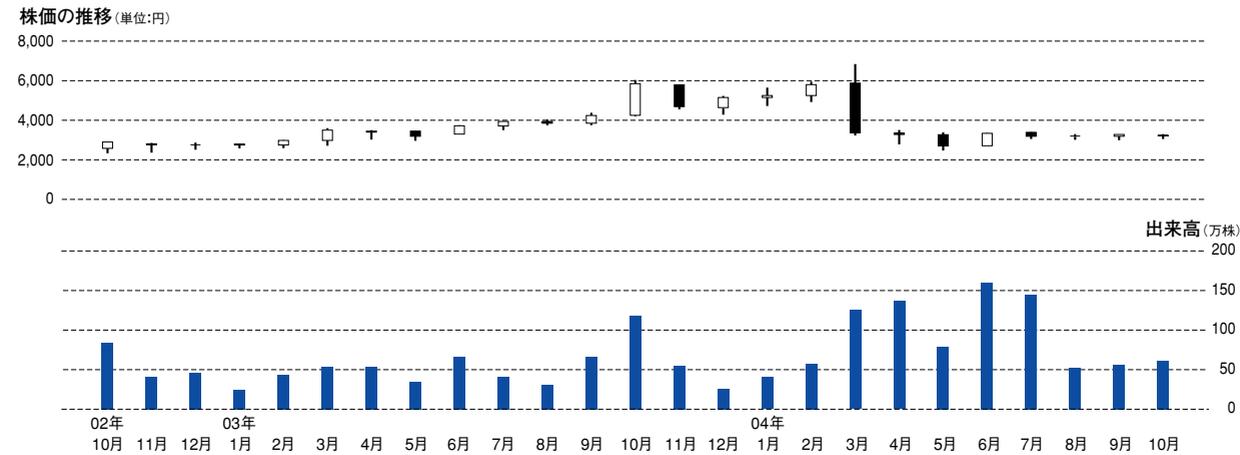
会社が発行する株式の総数 **100,000,000株**
 発行済株式の総数 **36,621,298株**
 株主数 **9,090名**

大株主

株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
保志忠彦	5,222	14.6
日本マスタートラスト信託銀行(株)	3,449	9.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	2,582	7.2
(有)ホシ・クリエート	2,187	6.1
保志忠郊	1,471	4.1
保志治紀	1,447	4.0
バンクオブニューヨークヨーロッパ リミテッドルクセンブルグ131800	997	2.7
資産管理サービス信託銀行(株)	886	2.4
米田龍佳	693	1.9
三菱信託銀行(株)	574	1.6

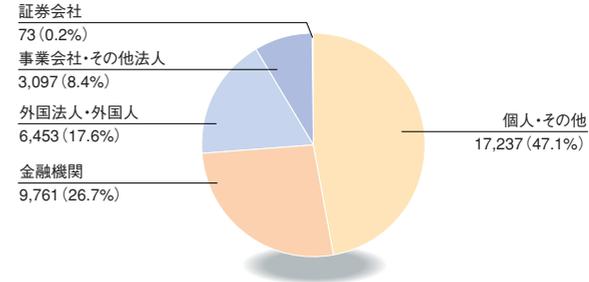
※当社は平成16年5月20日付けで株式分割(1:2)を実施しております。

■株価(月足)チャート

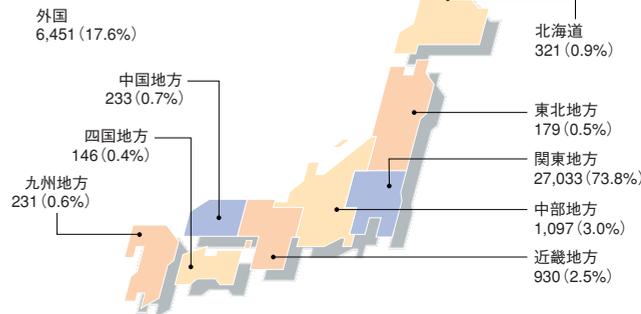


(注) 平成16年5月20日付けで平成16年3月31日の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主の所有株式数を1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

●所有者別株式分布 (単位:千株/構成比)



●地域別株式分布 (単位:千株/構成比)



会社概要 (平成16年9月30日現在)

商号 株式会社 第一興商
 (英文表記) DAIICHIKOSHO CO., LTD.
 所在地 〒141-8701 東京都品川区北品川 5-5-26
 TEL.(03) 3280-2151 (大代表)
 設立 1973年4月16日
 資本金 12,350百万円
 従業員数 当社 1,226名
 グループ 2,989名
 JASDAQ上場 1995年9月19日
 ホームページアドレス <http://www.dkkaraoke.co.jp/>

役員 (平成16年9月30日現在)

代表取締役会長	彦佳一
代表取締役社長	一浩
常務取締役	博爾
常務取締役	洋行
常務取締役	澄治
取締役	親之
取締役	恒治
取締役	一修
取締役	也彰
取締役	郎一
取締役	孝夫
取締役	太
取締役	憲
取締役	井
取締役	田
取締役	和
取締役	渡
兼最高執行役員	保米
兼最高執行役員	志田
兼最高執行役員	水川
兼最高執行役員	忠龍
兼最高執行役員	慎伸
兼最高執行役員	三智
兼最高執行役員	英樹
兼最高執行役員	信真
兼最高執行役員	伸敬
兼最高執行役員	康弘
兼最高執行役員	裕裕
兼最高執行役員	達
兼最高執行役員	川
兼最高執行役員	憲
兼最高執行役員	井
兼最高執行役員	田
兼最高執行役員	和
兼最高執行役員	渡
兼最高執行役員	邊
兼最高執行役員	敏



第一興商グループ 当社及び連結子会社 36社

(平成16年9月30日現在)
 主な事業内容: 業務用カラオケ事業/カラオケルーム運営事業/
 コンテンツ事業/音楽ソフト事業

■国内販売子会社 21社

(株)北海道第一興商	(株)城北第一興商	(株)コスモ第一興商
(株)釧路第一興商	(株)台東第一興商	(株)東海第一興商
(株)道南第一興商	(株)城東第一興商	(株)京都第一興商
(株)東北第一興商	(株)第一興商販売	(株)第一興商近畿
(株)常磐第一興商	(株)湘南第一興商	(株)京阪第一興商
(株)群馬第一興商	(株)新潟第一興商	(株)兵庫第一興商
(株)北関東第一興商	(株)長野第一興商	(株)九州第一興商

■その他国内子会社 8社

(株)ディーケーファイナンス	(株)トライエム
(株)ガウスエンタテインメント	(株)ファーストディストリビューション
日本クラウン	(株)ディーケー音楽出版
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	丸萩洋酒工業(株)

■海外子会社 7社

(株)韓国第一興商	Saha Daiichi Kosho Co.,Ltd.
第一興商(上海)電子有限公司	D. K. Enterprises (Guam), Inc.
上海綜藝音楽餐飲有限公司	Daiichi Kosho (Singapore) Pte Ltd.
上海必愛歌音楽餐飲有限公司	

(注) 1. Daiichi Kosho (Singapore) Pte Ltd. は休眠会社であります。
 2. (株)ハリマ第一興商と(株)姫路第一興商は、平成16年4月1日付けで合併し、(株)ハリマ第一興商を存続会社とし、社名を(株)兵庫第一興商に変更いたしました。
 3. 上海綜藝音楽餐飲有限公司は、平成16年7月に社名を上海綜藝音楽餐飲有限公司に変更いたしました。
 4. 上海必愛歌音楽餐飲有限公司は、平成16年4月に新たに設立いたしました。